

学位授与番号：甲 1074 号

氏 名：米永 健徳

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 30 年 3 月 28 日

学位論文名：

Can Short Tau Inversion Recovery Image Replace Contrast-enhanced T1 Weighted Magnetic Resonance Image in the Assessment of Inflammatory Changes of Psoriatic Arthritis?

（乾癬性関節炎の炎症性変化の評価において STIR 画像は造影 T1 強調画像を置き換えることができるか）

学位論文審査委員長：教授 中川秀己

学位論文審査委員：教授 池上雅博 教授 黒坂大太郎

論文要旨

氏名	米永 健徳	指導教授名	尾尻 博也
<p>主論文</p> <p>Can Short Tau Inversion Recovery Image Replace Contrast-enhanced T1 Weighted Magnetic Resonance Image in the Assessment of Inflammatory Changes of Psoriatic Arthritis?</p> <p>(乾癬性関節炎の炎症性変化の評価において STIR 画像は造影 T1 強調画像を置き換えることができるか)</p> <p>Takenori Yonenaga, Yasuyo Teramura, Reina Kawakami, Akari Sadaoka, Kunihiro Fukuda</p> <p>Japanese Journal of Diagnostic Imaging. 2018;36:in press</p>			
<p>要旨</p> <p>【背景・目的】</p> <p>乾癬性関節炎 (psoriatic arthritis; PsA) は乾癬に合併する慢性炎症性関節炎である。造影後 T1 強調画像は PsA の炎症性変化を鋭敏に捕らえる事が出来るが、造影剤投与に関わるリスクがある。short tau inversion recovery (STIR) 画像もまた炎症性変化を鋭敏に捕らえることができる。本研究の目的は PsA の炎症性変化である、滑膜炎、腱鞘炎、関節周囲炎、骨髄浮腫の評価について、STIR 画像と造影 T1 強調画像とを比較し、STIR 画像が造影 T1 強調画像を置き換えられるかを検討することである。</p> <p>【方法】</p> <p>東京慈恵会医科大学付属病院、皮膚科外来を受診した PsA 患者に対し、MRI を施行した。患側の手の滑膜炎、腱鞘炎、骨髄浮腫、関節周囲炎に対し STIR 画像と T1 強調画像の所見についてスコアリングを行い、両者を比較検討した。統計解析は読影者間信頼度と、造影 T1 強調画像を基準とした STIR 画像の感度、特異度、陽性的中率、陰性的中率について行った。</p> <p>【結果】</p> <p>読影者間信頼度は滑膜炎、腱鞘炎で低く、骨髄浮腫、関節周囲炎で良好な一致率が示された。造影 T1 強調画像を基準とした STIR 画像の感度は滑膜炎、腱鞘炎で低く、骨髄浮腫、関節周囲炎で高い結果が得られた。</p> <p>【結論】</p> <p>PsA の炎症性変化について、STIR 画像は骨髄浮腫や関節周囲炎については適した検査であるが、滑膜炎や腱鞘炎については造影検査の必要性が示された。PsA の MRI における早期診断には依然、造影剤の使用が必要と考えられる。</p>			

学位論文審査結果の要旨

米永健徳氏の主論文のタイトルは「Can Short Tau Inversion Recovery Image Replace Contrast-enhanced T1 Weighted Magnetic Resonance Image in the Assessment of Inflammatory Changes of Psoriatic Arthritis?」、和文名「乾癬性関節炎の炎症性変化の評価において STIR 画像は造影 T1 強調画像を置き換えることができるか」であり、参考論文として他に 2 編の論文提出があった。

学位論文審査委員会審査委員長 中川秀己教授、審査委員 池上雅博教授、黒坂大太郎教授の出席のもと、平成 30 年 3 月 8 日に公開審査会を実施した。公開審査会では米永健徳氏に研究概要を発表いただき、引き続き口頭試験を実施した。

米永健徳氏は審査委員からの質問に対して、適切に回答した。学位論文審査委員会にて審議した結果、本論文内容は学位論文として相応しいと判断した。